



耐震改修工事を行った2階建ての住宅 (東京都大田区、望月工務店提供) ※:画像は一部修整しています

昨年も福島県沖地震など各地で地震が起きた。自宅の倒壊を防ぐだけでなく、在宅避難をするためにも耐震化は欠かせない。不安を覚えたら、まずは耐震診断を受けることが重要だ。



耐震に不安…まずは診断

*「医療ルネサンス」はあくから掲載します。

一人に比べて食事に興味
が薄いかも。栄養さえ取
ればいい。仕事を続ける
限り、結婚しても今の食
生活を続けるつもりです」と
話す。

完全栄養



日清食品が販売する「完全メシ」のかつ丼



ビビンバセット(手前)など種類が豊富なユアミールの弁当

の健康が気になるとい
性では61.5%と、最も機
能を重視していた。

食品製造技術の向上で、

約20の質問に答えると、約
150のメニューから目的

建築時の基準 強度知る目安

いた。耐震診断をしたところ耐震性の評点は基準の1.0を下回る0.47で「大地震で倒壊する可能性が高い」レベルだった。診断から耐震改修工事までを担当した望月工務店(東京都大田区)社長の望月陽さん(67)によると、旧耐震基準で建てられたため、床面積当たりの壁の強度が足りなかったという。特に1階居間の壁の量が足りず、そこに屋根と2階部分の重みが加わっていた。

工事は1階で8か所、2階で4か所の壁に耐震ボードを取り付けて補強したほか、柱や筋交いの接合部を金物で固定した。工事後の評点は「大地震でも一応倒壊しない」とされる1.0まで改善された。佐藤さんは子どもが遊ぶ部屋にもなるので安心しました」と話した。

日本建築防災協会では、サイト上で耐震診断をすべきかどうかを
知するための目安が建築時期だ。住宅の耐震性能はその当時の建築基準法に依拠する。1981年の改正で必要な壁の量などが改定され、2000年の改正では壁の配置バランスや筋交いを留める金物も指定された。81年5月以前は旧耐震基準、81年6月以降は新耐震基準と呼ばれる。

補強工事に助成も
耐震診断は壁の強度や建物の形などを調べる実地調査は半日程度で済むが、評点の計算なども含めると2週間前後余裕をみておく方が良い。事業者選びで迷ったら、自治体の窓口などで調べられる。自治体は通常、耐震診断や耐震改修に対して助成制度も設けているので確認しよう。

ぷらざ

息子の成長実感 幸井
さい時に戻ったようで、自分が子どもに感じる」と言う。

「試験中だと家にいる時間が長いから、お母さんとよく話すよね」。12月上旬、学校の試験期間中、在宅していた次男が言った。

高校生になり、視野も興味も広がり、自宅で過ごす時間が減ってきた。普段から、割と話をしてくれる方だとは思っているが、母親の私と話していると、「小

